

新型コロナウイルス感染症に係る
一時滞在施設運営マニュアル
【個別作成ガイド（品川区標準版）】

令和3年3月

品 川 区

目 次

第1章 マニュアルの目的と方針

1. 目的	1
2. 方針	1

第2章 一時滞在施設の開設・運営の手順（発災時対応）

1. 受入準備（発災直後から概ね6時間後まで）	6
2. 受入時（概ね12時間後まで）	12
3. 受入後の対応（概ね1日から3日後まで）と閉設（概ね4日後以降）	13

第3章 一時滞在施設の開設・運営の準備（平常時の事前対策）

1. 受入施設的环境整備	14
2. 施設開設・運営手順の策定	14
3. 組織体制図の策定	14
4. 防災備蓄倉庫の整備	14
5. 訓練等の継続的实施と手順の検証	14

はじめに

- 本書は、施設管理者が「新型コロナウイルス感染症に係る一時滞在施設運営マニュアル【品川区標準版】」（以下、「感染症対策編」と略称する）を活用する際の補助資料として位置付けています。
- 施設管理者がマニュアルを作成する際には、本書を読みながら、「感染症対策編」をひな形のようにチェックしていくと作成できるようにしています。
- 本書では、「感染症対策編」の構成に沿って、各項目の解説、条件に応じたひな形修正の考え方、空欄部への書き込み方法、記載例などを示しています。
- マニュアル作成のイメージを向上させるため、適宜、参考事例を紹介しています。
- 本書記載の凡例は、以下のとおりです。

下線部：マニュアルの構成上重要なこと

⇒ ：施設毎のマニュアルを作成するにあたってのガイド



補足解説：「感染症対策編」の内容や考え方を解説したもの



ポイント：マニュアルの文書や図表、様式などの作成上重要なこと



参考：参考事例を紹介したもの

第1章 マニュアルの目的と方針

1. 目的

補足解説

- ・新型コロナウイルス感染症に係る一時滞在施設運営マニュアル【品川区標準版】（以下、「感染症対策編」と略称する）は、新型コロナウイルス感染症の流行期（以下、「コロナ禍」と略称する）において大規模災害が発生した場合の一時滞在施設の運営における感染拡大を予防するための基本的な方針や手順を定めたものです。

- ・一時滞在施設の一般的な運営に関しては、一時滞在施設運営マニュアル【標準版】を参考にしてください。
⇒感染症対策編の「第1章1. 目的」（1頁）に、一時滞在施設の対象となる施設名を記入しましょう。

2. 方針

（1）支援内容

- ・一時滞在施設として提供できる支援内容は、「標準版ガイド」（第1章2.（1）支援内容（1頁））を参照。
- ・コロナ禍においては、一時滞在施設で必要な支援の提供について、感染防止策を講じながら、どこまでできるかを検討しておきます。

（2）施設の適用範囲

補足解説

- ・一時滞在施設での新型コロナウイルス感染症への対策として、集団感染の発生を防止することが重要です。このため、感染症対策は、密閉空間、密集場所、密接場面の3つの密（以下、「3密」と略称する）がそろうような条件を回避することが基本となります。
- ・3密回避のためには、「一時滞在スペース」の拡充が望まれます。
- ・「一時滞在スペース」の拡充が困難な場合は、スペースの確保のために必要に応じて受入可能人数を制限するなどの調整をします。



ポイント：施設の用途、利用範囲、受入人数

- 施設の用途としては、「最低限設ける場所」と「可能であれば設ける場所」が想定されます。

表1 施設の用途(例)

最低限設ける場所(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・検温・問診スペース ・受付 ・一時滞在スペース ・共用スペース(トイレ、情報提供、物資配布、ゴミ廃棄等のスペース) ・防災備蓄倉庫 ・運営本部(管理スペース)等
可能であれば設ける場所(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・負傷者・要配慮者用スペース ・負傷者・要配慮者用のトイレ ・一時待機スペース(疑症状者の待機用スペース) ・疑症状者用スペース ・疑症状者用のトイレ等

- 施設の利用範囲として、帰宅困難者による「利用可能範囲」と「立入禁止範囲」を決めて、各範囲を地図上に色分けします(感染症対策編の「図1-1 施設利用計画(例)」(3頁)を参照)。なお、「立入禁止範囲」の例としては、施設管理者が利用する場所や、運営本部、備蓄倉庫などのスペースが想定されます。
- 受入人数は、4㎡に1名を目安に算出します(品川区、新型コロナウイルス感染症に係る避難所運営マニュアル【品川区標準版 ver. 1】、令和2年7月を参照)。但し、実際の運用では、通路、荷物置き場、就寝スペースなどが必要となり、受入人数の見直しが必要となる場合があります。
- 通路は一方通行とし、できる限り通行者がすれ違わないようにします。可能であれば、出口と入口を分けます。
- 感染症対策のために、可能であればパーティションで施設滞在者の各占有スペースを区切るようにします。パーティションは飛沫感染を防ぐため、少なくとも座位で口元より高いパーティションにします。
- 滞在希望者が受入可能人数を超える場合の対応も考えておきます(利用範囲を広げる、区に相談する、他の施設を紹介するなど)。

(3) 傷病者・要配慮者などへの対応



補足解説

- ・施設開設後、要配慮者を優先して施設に誘導します。受入を優先する要配慮者は、要介護者、障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦等です。
- ・要配慮者は、感染した場合に重症化するリスクがあるので、要配慮者の受入可否の判断や受入方法などについては、事前に、区や関係団体とも相談し、検討しておきましょう。

(4) 施設の開設条件



補足解説

- ・コロナ禍における開設判断の目安としては、「緊急事態宣言」の有無があります。
- ・一時滞在施設において、最低限の感染防止対策（3密回避等）をとれない場合は、「開設しない」という判断も検討しましょう。

(5) 事前対策の内容

ア 組織体制

- ・感染症対策をふまえた運営を行う組織体制は、通常の組織体制（標準版の組織体制）と同様の体制とし、各班の役割は感染症対策を取り入れたものとします。
- ⇒ 「**ポイント**」：感染症対策を取り入れた各班の役割」（表2）を参考に、自社の班体制や役割を検討しましょう。



ポイント：感染症対策を取り入れた各班の役割

- 組織体制は、「標準版ガイド」（第1章2.（5）ア 組織体制）（5頁～7頁）を参照。
- 組織体制は、標準版で検討した班をもとに考えるとよいでしょう。
- 各班の感染症対策に関する主な役割を具体化します（表2参照）。

表2 発災時および平常時における各班の感染症対策に関する役割

	発災時	平常時
本部長	<ul style="list-style-type: none"> ●一時滞在施設の状況把握（施設滞在者の健康状態）と区への報告 ●感染防止に関する指示 ○疑症状者の状況把握（疑症状者用スペースを設けた場合） 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染防止に関する指示
総務・情報班	<ul style="list-style-type: none"> ●受付（3密回避、疑症状者の誘導） ●感染防止に関する情報収集・提供、情報管理 ○疑症状者の誘導支援 ○疑症状者のニーズ把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●マニュアル（新型コロナウイルス感染症対策編）の管理 ●情報入手手段の整備 ○コロナ禍における一時滞在施設開設・運営訓練の企画・運営
物資・救護班	<ul style="list-style-type: none"> ●衛生用品配布 ●傷病者・要配慮者・疑症状者対応（区等に連絡） ○衛生用品に関する相談受付 ○疑症状者の生活支援（疑症状者用スペースを設けた場合） 	<ul style="list-style-type: none"> ●衛生用品の調達・管理 ●傷病者・要配慮者・疑症状者対策 ○感染防止の資器材（パーティション等）の整備
施設班	<ul style="list-style-type: none"> ●症状に応じたゾーニング ●衛生管理（消毒液の設置、清掃、換気） ●防犯対策 ○衛生管理（一般滞在者と疑症状者のゾーニング） 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の整備 ●衛生管理の整備 ○疑症状者用スペースの整備

（凡例）●：最低限行うこと、○：可能であれば行うこと

イ 物資や資器材の準備



補足解説

- ・区から提供される物資等は、感染症対策編「表 2-3 物資等一覧」(8 頁)を参照。
- ・可能であれば、ゾーニング時に活用するパーティションや、傷病者や要配慮者への対応に必要な段ボールベッド等を準備します。
- ・運営要員と施設滞在者との接触の機会を減らすためには、情報連絡手段として携帯電話等の情報通信機器の利用頻度が増えることが想定されます。このため、携帯電話用充電器等を準備しておくといでしょう。
- ・感染症対策のために必要な物資(例)を、表3に示します。自社で物資を準備する際に参考にしてください。

表3 感染症対策に必要な物資(例)

用途	物資
健康管理用	非接触型体温計
消毒用・清掃用	石けん、消毒液(70%以上エタノール)、ペーパータオル、除菌用アルコールティッシュ、清掃用の家庭用洗剤、次亜塩素酸ナトリウム、使い捨てゴム手袋、ポリ袋、ゴミ袋、バケツ、蓋つきゴミ箱(足踏み式)、新聞紙(吐物処理用)
個人防護具	マスク、眼の防護具(ゴーグルまたはフェイスシールド)、使い捨てゴム手袋、カッパ、ガウン
その他	パーティションまたは間仕切り、段ボールベッド、簡易テント、養生テープ(区画用)、透明シート等による間仕切り(受付用)、扇風機(換気用)

(6) 閉設基準

- ・閉設基準は、「標準版」(第1章2.(6)閉設基準)(5頁)を参照。
- ・閉設時は、施設内の必要箇所を消毒した上で、原状回復を行います。

第2章 一時滞在施設の開設・運営の手順（発災時対応）

1. 受入準備（発災直後から概ね6時間後まで）

- ・「図 2-1 運営のフロー図」と「表 2-1 運営チェックリスト」の構成は、「標準版ガイド」（第2章1. 受入準備）（10頁）を参照。

⇒感染症対策編の「表 2-1 一時滞在施設運営チェックリスト（時系列での対応項目）（新型コロナウイルス感染症対策編）」（5頁）は、標準版と同様、一時滞在施設運営の目的、自社の保有資源などに合わせて、適宜、取捨選択してご活用ください。

（1）参集、役割分担

- ・滞在を希望する帰宅困難者の中には、「感染しているが無症状の方」もいる可能性があるので、対面に対応する運営要員は、感染症対策を行う必要があります。



ポイント：運営要員の感染症対策

- 運営要員の感染症対策について、場面ごとに想定される装備を表2に示します。

表4 運営の場面ごとに想定される装備

	マスク	眼の 防護具※1	使い捨て 手袋※3	掃除用手袋 ※3、4	長袖ガウン ※5
受付時の対応	○	△※2	○		
清掃、消毒	○	○		○	
疑症状者用スペースでの対応	○	○	○		
疑症状者用スペースの清掃、消毒	○	○		○	○
ごみ処理	○	○		○	○

※1 フェイスシールドまたはゴーグル(目を覆うことができるもので代用可)

※2 要員の個々が担当する内容に応じて使用する。例えば、受付で連続して同じ人が複数の帰宅困難者に対応する際は着用する。単発的に、短時間(一人15分以内)で接する際は着用不要。)

※3 手袋を外した際は、手洗いを行う。使い捨てビニール手袋も可。

※4 手首を覆えるもの。使い捨て手袋・使い捨てビニール手袋も可(複数人での共用は不可)。

※5 医療用ではないので、ゴミ袋の活用(次ページ参照)、カッパでの代用も可。



ポイント：装備品の準備

- 装備品（フェイスシールド、長袖ガウンなど）不足に備えるためにも、クリアファイルなどを利用した簡易フェイスシールドの作り方や、プラスチック袋（ポリ袋など）を利用した長袖ガウンの作り方を知っておくとよいでしょう。可能であれば、装備品の作成訓練をするとよいでしょう。



参考：ゴミ袋でのガウンの作り方

● 準備するもの

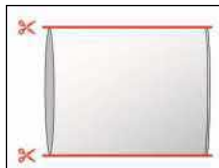
45ℓゴミ袋（2枚）、ガムテープ、ハサミ

● 作り方

【上半身用ガウン】

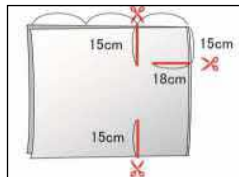
①右が底部、左が開口部になるように置く

②袋の両サイドをカットする

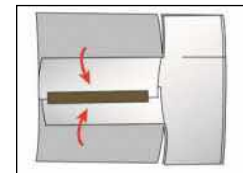


③底部から中央に向かって18cm 切り込みを入れる

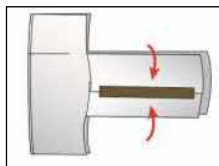
④底から3分の1のところ、両サイドから15cm 切り込みを入れる



⑤両サイドを谷折りし、ガムテープを貼る

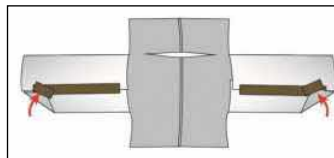


⑥裏返して反対側も同様に谷折りし、ガムテープを貼る



⑦上半身用ガウン完成

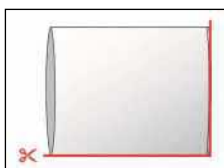
(時間があれば、袖口を三角に折ってガムテープで貼る)



【下半身用ガウン】

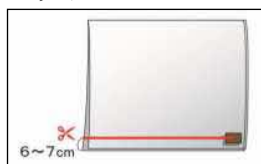
①右が底部、左が開口部になるように置く

②L字型に切り開く

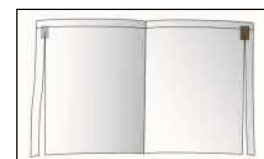


③L字の角部分にガムテープを貼る（2枚目にも貼る）

④端から6～7cmのところをガムテープの半分までカット



⑤下半身用ガウン完成



(出典) 公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院、ホームページ

参考：簡易フェイスシールドの作り方

● 準備するもの

透明度の高いクリアファイル（または透明プラ板（A4））、ハサミ、穴あけパンチ、ホッチキス、平ゴム 48cm くらい（大人用）

※良好な視界を確保するには、透明度の高いクリアファイルや、2リットルペットボトルが良い。

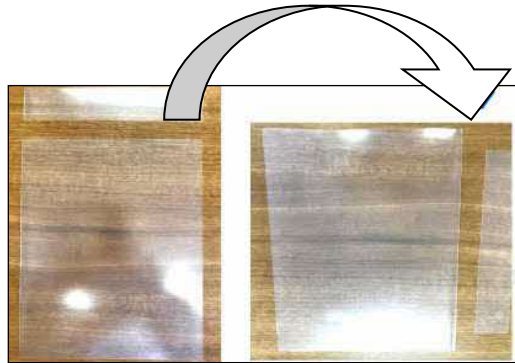
● 作り方

- ① A4 透明クリアファイルは片面を切り離し、縦長に置く



- ② 上から 4 cm のところで切る

- ③ 切り離れた部分を横に置く（おでこにあたる部分になる）



- ④ 切り離れた大きいほうのクリアファイルを、4 cm に切ったものと角を合わせられるように少し丸めてホッチキスで止める（この時、針の先端が顔側にならないように注意）



- ⑤ ホッチキスで止めたあたりに穴あけパンチでゴムを通すための穴を開ける



- ⑥ 平ゴムを通して結ぶ



- ⑦ 4つ角を丸く切る



- ⑧ 完成



(引用・参考資料) 本稿は、とこは Web 通信

<https://www.tokoha-u.ac.jp/community/telecommunication/20200626/>（新型コロナウイルスを考える 6月26日付）に掲載された資料を一部修正して再構成してあります。

(2) 建物内の被害点検、応急処置

⇒標準版(第2章1.(2)建物内の被害点検、応急処置)(9~10頁)を参照。

(3) 開設の判断/開設できない場合の対応

⇒本書の「第1章2.(4)施設の開設条件」(3頁)を参照。

(4) 一時滞在施設運営のための組織編成



補足解説

- ・発災後に速やかに施設の運営ができるよう、本部長、各班の班長、主な担当者を決めておきます。
- ・各班の要員は、事業所の規模によりますが、可能であれば班長、副班長を含め3~5名程度とします。時系列での業務の負担量に応じて、兼務も検討します。
- ・コロナ禍では、定期的な換気や掃除などの施設の衛生管理での要員を多く必要とします。施設滞在者には、運営の早期の段階で、衛生管理などの協力を呼びかけます。
- ・感染症対策編の「表2-2 発災時および平常時の役割一覧」(6頁)の「班長や主な担当者」と「担当者数合計」を参照しましょう。

(5) 施設の区域設定および利用案内の掲示

- ・標準版の「施設被害点検結果」(表2-3)(9~10頁)等に基づき、施設の区域設定をします。
- ・施設利用案内には、民間の一時滞在施設を開設・運営する上での基本的な事項(感染対策をふまえた事項)を示します。

⇒「施設利用案内」は、感染症対策編の「**様式4** 貼り紙類」(22~26頁)をご活用ください。

(6) 各班による受入準備

ア 受付の設置、受入空間の養生 (担当：総務・情報班)



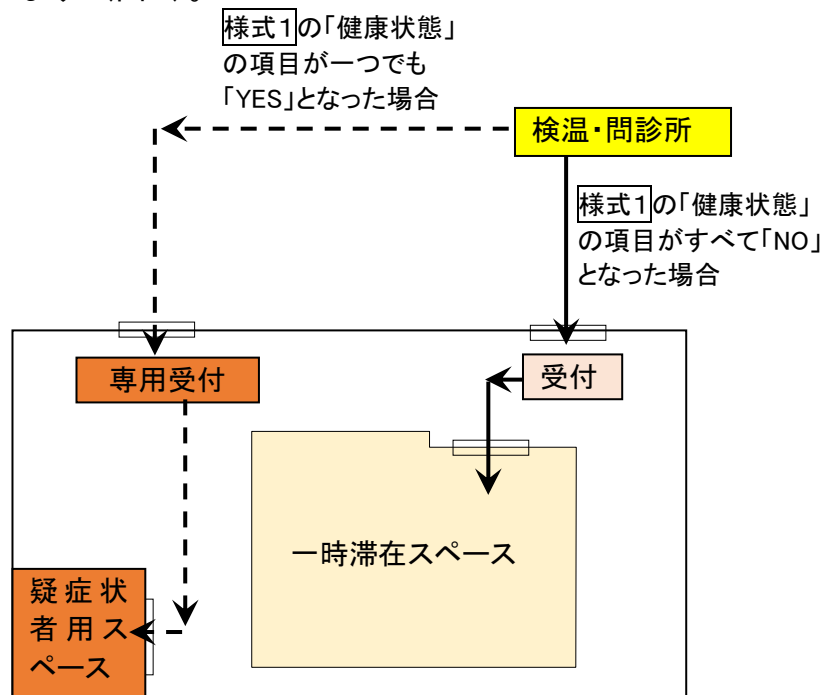
補足解説

- ・受付の前に、「検温・問診」を行うスペースを設け、「検温・問診」後には、感染の疑いのある「疑症状者」とそうではない人（一般施設滞在者、要配慮者など）の動線を分けて受付、受入を行います（下記、**参考**：受入での動線の例を参照）。
- ・受付にビニールなどのパーティションが準備できない場合は、**受付要員はマスク、手袋に加えて、目の防護具を着用**することが望ましいです。



参考：受入での動線の例

- 検温・問診所で「**様式1** 施設滞在者カード・受入承諾書」（感染症対策編の15～16頁）の「確認項目②健康状態」の項目の問診を行い、その結果によって、一般施設滞在者および要配慮者と、疑症状者の動線を分けて受付・受入を行います（図1）。



[凡例] → : 一般施設滞在者や要配慮者の動線、- -> : 疑症状者の動線

図1 受入での動線の例

イ 簡易トイレの設置 (担当：施設班)



補足解説

- ・トイレには、手指消毒などの手指衛生を行うスペースを設けます。
- ・一般施設滞在者・要配慮者と、疑症状者の各トイレを分けることは重要です。

ウ 情報手段の準備 (担当：総務・情報班)



補足解説

- ・情報提供場所（掲示板など）の周囲は、密とならないように、情報の入手時間を分散するなどの工夫が求められます。
- ・また、直接対面しない情報入手手段として、放送設備（館内放送）やラジオ、携帯電話（充電器）などを活用しましょう。

エ 物資・資器材の準備など (担当：物資・救護班)

- ・通常の運営に必要な物資・資器材とともに、コロナ禍において使用する資器材を確認します。

オ コロナ禍における施設の衛生管理 (担当：施設班)



補足解説

- ・衛生用品（アルコール消毒液、マスク等）を確保し、施設に整備する必要があります。
- ・ゴミ廃棄スペースでは、「感染廃棄物」として捨てるものを周知し、感染症対策としてゴミの分別を徹底します。

(7) 一時滞在施設開設の情報提供

- ・一時滞在施設開設の情報は、区に提供することになっています。
- ⇒標準版の「表 2-4 社外連絡先一覧」(12 頁)の「品川区 各地区対策本部」などの記入欄に必要事項を記入しましょう。

2. 受入時（概ね 12 時間後まで）

（1）帰宅困難者の受入

ア 帰宅困難者の受付、記帳依頼、名簿作成、報告書作成



補足解説

- ・感染防止のためには、帰宅困難者をなるべく早い段階で「一般施設滞在者」と「疑症状者」に分ける必要があります。例えば、最初に「検温」と「問診」を行い、「疑症状者」に該当する人と、そうではない人を、別々の受付に誘導する等の方法があります（本書の図 1（10 頁））。
- ・マスクは、持参して来なかった帰宅困難者のみに配布します。

イ 滞在を希望する多数の帰宅困難者の対応方法

⇒標準版の「第 2 章 2.（1）イ 滞在を希望する多数の帰宅困難者の対応方法」（14 頁）を参照。

ウ 要配慮者・傷病者の対応

⇒標準版の「第 2 章 2.（1）ウ 要配慮者・傷病者の対応」（15 頁）を参照。

エ 施設滞在者の誘導（3 密回避）

- ・3 密回避のためには、「一般施設滞在者」と「疑症状者」等の動線が交わらないような配置を検討します。

（2）各種情報収集・提供

ア 施設滞在者への施設の利用案内、保健衛生面の留意事項の掲示

- ・掲示物には、施設滞在者が密とならないように、周囲を養生テープで囲って、掲示物の確認に人数制限を設けるなどを行います。
- ・感染防止のために、「運営要員と施設滞在者の対面でのやりとりを必要最小限」にします。可能であれば、「対面に変わる方法（オンライン、書面など）」を活用します。

イ 一時滞在施設運営などに関わる各種情報収集・提供

- ・コロナ禍の情報には、通常の運営時の情報の他に「感染状況、感染症対策」があります。

ウ 施設滞在者（要配慮者など）からの相談への対応（接触機会の最小化）

- ・要配慮者等からの相談への対応は、対面でのやりとりを必要最小限にします。可能であれば対面に変わる方法（オンライン、書面等）を活用します。

エ 区への報告・相談

⇒標準版の「第2章2.（2）エ 区への報告・相談」（16頁）を参照。

（3）物資の配布

- ・感染防止のために、配布の頻度を最小限に留めます。可能であれば、受付の際に、物資を一通り配布します。

3. 受入後の対応（概ね1日から3日後まで）と閉設（概ね4日後以降）

（1）各班による施設滞在者への対応

- ・施設滞在者には、感染症対策を徹底した上で、施設の運営（衛生管理等）に協力してもらいます。
- ・受入後に施設滞在者の中で体調不良者が発生する可能性があるため、施設滞在者には、自身の健康管理（検温等）を促します。

（2）一時滞在施設の閉設

- ・疑症状者用スペースの閉設においては、対応する担当者はマスクや手袋、ガウンを着用します。廃棄物等を処分する場合は、ビニール袋に入れて密閉して廃棄します。

第3章 一時滞在施設の開設・運営の準備(平常時の事前対策)

1. 受入施設的环境整備

⇒感染症対策編の「第3章1. 受入施設的环境整備」(13頁)を参照。

2. 施設開設・運営手順の策定

⇒感染症対策編の「第3章2. 施設開設・運営手順の策定」(13頁)を参照。

3. 組織体制図の策定

⇒感染症対策編の「第3章3. 組織体制図の策定」(14頁)を参照。

4. 防災備蓄倉庫の整備

(1) 備蓄スペースの確保

- ・コロナ禍において必要な物資等(感染症対策編の「表2-3 物資等一覧」(8頁))は、区の防災備蓄倉庫に保管しています。
- ・自社施設の備蓄スペースの確保については、標準版の「第3章4.(1) 備蓄スペースの確保」(23頁)を参照。

(2) 備蓄品の確保・管理

- ・コロナ禍において必要な物資等の確保・管理は区が行います。
- ・その他の物資等の確保・管理は、標準版の「第3章4.(2) 備蓄品の確保・管理」(23頁)を参照。

(3) 備蓄品の使用ルールの策定

- ・コロナ禍において必要な物資等は、発災時に一時滞在施設開設の連絡が区と取れた場合に、区から提供される予定です。

5. 訓練等の継続的实施と手順の検証

- ・一時滞在施設の開設・運営手順は、新型コロナウイルス感染症流行以前に想定していた対応から大きく変更する部分(例えば、受付の対応、施設の衛生管理等)があるので、コロナ禍の一時滞在施設の開設・運営訓練の検討を行います。

参考文献

- ・公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院、ホームページ
- ・内閣府、新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドラインについて、令和2年9月7日
- ・品川区、新型コロナウイルス感染症に係る避難所運営マニュアル【品川区標準版 ver. 1】、令和2年7月
- ・品川区、新型コロナウイルス感染症に係る避難所運営マニュアル【品川区標準版 ver. 1】資料集、令和2年7月
- ・常葉大学健康科学部看護学科教員有志一同、マスクの取り扱いと簡易フェイスシールドの作り方
- ・東京都総務局総合防災部、行き場のない帰宅困難者を受け入れる都立一時滞在施設における新型コロナウイルス感染症対策について（震災時を想定した留意事項）、令和2年4月30日
- ・東京都、避難所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（東京都避難所管理運営の指針別冊）、令和2年6月